

今年1年は、石狩市にとって大変重要な年になります。なぜなら、厚田村・浜益村と合併するかどうかを決める年になるからです。

現在、3市村は合併協議会で合併の是非についての判断材料を組み立てているところですが、それらが出そろう今年の夏以降は、市民の皆さんにも大いに議論していただきたいと願っています。

今後は、合併問題に関する情報をこのコーナーで毎月お知らせしていきます。今回は、市に寄せられた2つの質問にお答えします。

Q1 合併なんてイヤ。どうしてそんなことを考えるの？

現在、国では「市町村は住民に最も身近な行政主体として、効率化を図りながら規模や能力をさらに充実させる必要がある」との考え方の下に、市町村が自主的に合併するよう、さまざまな手段を講じています。来年3月までに合併を決断した市町村には財政支援を行いう一方で、三位一体改革により市町村の収入を減らすことが一例として挙げられます。少ない収入で財政運営をするためには効率化が必要であり、市町村合併をすることで首長や議員、職員を全体で減らすこともその一つの方法であることは確かなことです。このようなこともあります。多くの市町村が合併について検討しています。

こうした状況の中で、今合併について全く考へないということは、将来に大きな後悔を残すことにもなりかねません。合併はまちの将来に大きな影響を与えます。客観的な材料と確かな判断に基づいて、その是非を決めなければなりません。そのため「合併したらこうなる」「合併せずに単独のままならこうなる」という2つの姿を、現在一生懸命作っているところです。この夏ごろに出来上がる予定ですので、それらを十分に比較検討したうえで、合併の是非をお考へください。「好き」「嫌い」といった感覚的な理由だけで合併を判断することは、まちの未来を決める上でとても危険なことだということを、ぜひご理解ください。

現在の厳しい情勢では、合併するにせよ、しないにせよ、相当の覚悟が必要になると思われます。市は、今のところ合併については中立の立場ですが、結論がどうなろうとも、まずは真剣に検討するという方針を探っています。

Q2 合併検討の相手はなぜ厚田村と浜益村なの？

説明会などではしばしば、札幌市との合併（1）や、当別町・厚田村・浜益村・新篠津村の5市町村の組み合わせ（2）を検討しないのはなぜか、とのご質問をいただきます。

（1）の場合は、平成12年に北海道が示した合併パターンで、道内における人口の一極集中を避ける趣旨で、札幌市は合併対象から除外されています。また札幌市自身も、地方分権の趣旨から札幌が大きくなるより均衡ある発展が望ましい、札幌市民から合併すべきとの議論がない、などの理由により、合併は考えていないと報じられています（北海道新聞平成15年12月30日朝刊）。このため、今の時点では札幌市は合併協議の対象とはなりません。

（2）は、消防事務やごみ・し尿処理などを共同で行っているため、今の3市村の枠組みが固まる前の時点で検討されました。しかしその時点では当別町から具体的な考えが示されず、当別町抜きでは飛び地になる新篠津村もそれ以上の検討を断念しました。現在、当別町と新篠津村は1町1村での法定協議会設置に向けて検討を進めていると報じられています。このような理由から、現在焦点となっている、来年3月の合併特例法の期限をにらんだ合併の検討は、石狩市・厚田村・浜益村の枠組みで進めているところです。



平成16年1月24日と2月7日の2日間、花川北コミセンで、北海学園大学法学部の佐藤克廣教授を講師に招き、市民大学公開講座「今、なぜ合併論議か」が開催されました。今回と次回は、この講演内容の一部をご紹介します。

最近の合併論議をどう解釈するか

最近の全国的な合併論議は政治主導の色彩が強く、これに呼応して総務省をはじめとした各省庁が、現在の合併特例法の期限が切れる、来年3月までにできるだけ合併を進めようと、各種の合併推進施策を講じています。

市町村の数を1000にするという与党合意に沿って、政府は合併推進を閣議決定していますが、合併特例法は強制的に合併をさせる法律ではなく、財政上の特例措置などを定め、市町村が自主的に合併する場合にメリットがある法律です。

一方で、来年4月以降は、財政的なアメをなくし、厳しく合併を推進するので、どうせ合併するなら早くしたほうが良いなどと合併をおり立てている面もあります。

市町村合併のメリット、デメリット

合併のメリットとしては、行政の効率を高めたり、専門能力を持った職員を増やすことが可能と言われています。まちの規模が大きくなれば、職員数も増え臨機応変に仕事ができるようになりますし、職員の専門性が確保されることで、高齢者介護や情報公開・行政手続きなど新しい行政需要に対応することが可能になります。効率化の面では、人件費削減などによる効果が期待されますが、反面、行政効率の向上は行政の画一化を招くこともあるので、住民満足に繋がるとは限りません。

一方、デメリットとして、自治意識の問題が挙げられています。確かに、合併によりまちの名前が変わり、役所(場)が消え、自分たちの中心を失うという感覚は分かりますが、大事なのは自分の住んでいる地域をどうしたいのかという「わがまち」意識です。自分たちでまちをつくるのだという意気込みが自治意識であり、そういった意識は役所(場)がなくなつたとしても必要なものでしょう。

市町村合併はイメージ操作か

今回の合併論議が分かりにくいことは確かです。合併により、大きなまちになれば、国や道からさまざまな権限が移譲され、独自の判断ができる（地方分権）と言われますが、これまでの実態を見るとそうとも言えません。また、人口1万人以下のまちに配分される地方交付税の割合は小さいので、合併が国の財政再建に繋がるとも言い切れません。規模などにもよりますが、産業などの基盤がしっかりしていれば、合併しても地域として現状維持は可能です。昭和の大合併で地域が寂れたというのは、合併のせいというよりも、そうした基盤が弱かつたり、時代に合っていないからではないでしょうか。合併の大義名分に疑問はありますが、交通通信事情の変化などを考えると、単純に市町村合併が不要と言ふこともできません。

自主的判断と自立、まちづくりの考え方

市町村合併は、住民の自主的な判断で決めるべきものですが、判断をするためのデータ・材料が意外と少ないのが現状です。地方交付税の削減は、合併によって回避できるものではなく、今後もさらに進むものと考えられ、合併特例債であまり借金をしそぎると、結局返すときに大きな負担となる懸念があります。

一番考えなければならないのは、まちづくりです。全国に全く同じ条件のまちはありません。特徴、個性を生かしたまちづくりを進めるためには、自分たちの地域の強いところ、弱いところを知り、どういう活路があるか見い出し、外部から、あるいは内部から脅威はないかを知る必要があります。石狩に置き換えた場合、自分たちの将来のまちがどうなるかをきちんとイメージしてみてはどうでしょうか。日本では、人と同じことが良いとする風潮がありますが、もっと個性を楽しむことも大切です。

とことん考えよう！市町村合併（第3回）



平成16年1月24日と2月7日の2日間、花川北コミセンで、北海学園大学法学部の佐藤克廣教授を講師に招き、市民大学公開講座「今、なぜ合併論議か」が開催されました。前回に続き、この講演と質疑の一部を紹介します。

市町村合併の視点

来年3月までに合併することを決めると、借金返済額の7割を地方交付税で国が面倒をみてくれる優遇措置がありますが、地方交付税が圧縮されていく中で本当にそうなるかどうかの判断は難しいところです。地域の事情によっても変わりますが、市町村の共通事務を共同で処理する広域連合でも行政の効率化はできますが、役所が一つになる合併の方が、より効果的といえます。

行政の効率化は、行政サービスを低下させないまま行うことも可能ですが、究極の効率化とは今あるサービスをやめることですから、合併する・しないにかかわらず、住民の皆さんができるまでなら受け入れられるかという点もポイントになります。

住民投票のパラドックス

全国的には、あちこちで住民投票が行われていますが、設問の方法によって、最終の判断が変わることがあります。

あるまちは、「（1）隣りのまちと合併する　（2）郡全体で合併する　（3）合併しない」という3つの選択肢を設け、過半数の意見を尊重するという条件で住民投票を行いました。

結果は、（1）と（2）が多かったけれども、3つとも過半数にならず、議会内部で（1）と（2）の意見が対立した結果、得票が最も少なかった「合併しない」という結論が選ばれました。合併を選んだ人が多数だったのに、少数の意見に決まってしまったのです。

これは極端な例かもしれません、設問の作り方によっては、投票結果をどう判断するか難しい場合もあるということを念頭に置く必要があります。

受講者との質疑応答

Q1. 「厚田・浜益との合併」、「札幌との合併」、「現状のまま」のメリット・デメリットをそれぞれお聞かせください。

A1. 非常に難しい質問です。その人の立場が異なると、同じ事がメリットにもデメリットにもなります。また、前提をどうするかによっても変わるものですね。「現状のまま」と言っても、行政サービスを現状のまま維持できる可能性はないでしょう。合併のメリット・デメリットは、我々専門家が長い時間議論しても、最後は「分からない」というところに落ち着いてしまいます。

Q2. 財政シミュレーション（広報3月号折り込みパンフレット参照）では、合併した方が財政的に有利となっているようですが本当ですか？

A2. 現在公表されているものは、一次推計といって、一定の仮定のもとに同じ条件で計算したものですが、合併に伴う財政支援と人件費の削減効果などがあり、合併した方が有利な結果になるのは当然です。本当にそうなるかは、これから作る新市建設計画などの事業費も織り込んだ二次推計を見なければ何とも言えないでしょう。

Q3. 住民が合併の是非を判断する場合のポイントは何ですか？

A3. いろいろな要素を考えられます、石狩市として本当に得か損かが、一つの判断基準になると思います。

石狩市・厚田村・浜益村合併協議会は、ほかの協議会と違って、判断材料を示すことを目的に作られた協議会ですから、今後協議会が作る「合併するとした場合の姿」と市が作る「合併しない場合の姿」を見比べ、どちらが得かを皆さんで考えるということになると思います。

とことん考えよう！市町村合併（第4回）

これまで開催してきた合併についての説明会の中で、「厚田村、浜益村についてよく分からない。知りたい」といった声が聞かれました。そこで今回は、データをもとに厚田村・浜益村の「まちの姿」を探ってみました。

合併議論への市民参加

石狩市厚田村浜益村まちの概要

	石狩市	厚田村	浜益村
総人口 (a)	54,567人	2,804人	2,363人
総面積 (b)	117.86平方メートル	292.83平方メートル	311.15平方メートル
可住地面積	100.69平方メートル	76.49平方メートル	44.95平方メートル
人口密度 (a/b)	463.0人／平方メートル	9.6人／平方メートル	7.6人／平方メートル

厚田村・浜益村はともに石狩市の約3倍の面積をもっていますが、可住地面積(田+畠+宅地の合計面積)は石狩市よりもはるかに小さくなっています。広大な山林に囲まれた平地が海岸沿いに点在し、そこに集落が形成されているまちです。

また、石狩市緑ヶ原(みどりがはら)地区と隣接する厚田村聚富（しゅっぷ）地区には厚田村総人口の約1/3が集中しており、石狩市とのボーダレス化が特に進んでいる地域です。

住民投票はしないの？

石狩市厚田村浜益村産業別就業者数

	石狩市	厚田村	浜益村
総就業者数a	26,111人	1,397人	1,199人
1次産業従事者数b (b/a)	4%	32%	23%
	878人	440人	273人
2次産業従事者数c (c/a)	28%	19%	33%
	7,142人	271人	403人
3次産業従事者数d (d/a)	68%	49%	44%
	17,391人	682人	523人
自市区町村で従業している就業者e (e/a)	47%	76%	93%
	12,381人	1,060人	1,117人

※（ ）内はパーセントを示します

厚田村・浜益村はどちらも1次産業（農林漁業等）を中心のように感じられますが、特徴的なのは浜益村の2次産業従事者の割合の高さです。これは道内で21番目に高く、村内で従業する就業者割合の高さも考え合わせると、建設・製造業という地元に根付いた雇用の場があることがうかがわれます。

とことん考えよう！市町村合併（第5回）

市では、平成16年3月から4月にかけて、重点的に町内会や団体の総会等におじゃまし、多くの方に合併問題についての理解を深めていただきました。今回は、出前説明のなかで多く寄せられた質問をご紹介します。

Q1 札幌市や当別町との合併は考えられないのか？

A1 今のところ札幌市はどこの町とも合併する考えがないため、平成17年3月を期限とする現在の合併検討では選択肢になりません。札幌市との合併は、将来的に道州制も含めた北海道のあり方が議論される際などの検討課題となるのではないかでしょうか。一方、消防やごみ処理などを共同処理している石狩北部5市町村の合併は、早い時点で検討されました。その時は当別町が否定的であり、新篠津村も飛び地になることから、現在の石狩市・厚田村・浜益村の枠組みになりました。

Q2 合併した場合の財政支援措置はどのようなものか？

A2 簡単にまとめると下表のようになります。これらのうち合併特例債は借金ではありますが、返済額の7割を国が交付税で手当してくれるので、よく使い道を考えて借りれば効果的なものとなります。

合併した場合の財政支援措置

借りるお金 (3割返済)	合併特例債	約154億円（合併後10年間の上限）
もらえるお金 (返済不要)	交付税の合併補正	約5.0億円（5年間）
	特別交付税	約4.2億円（3年間）
	合併補助金	約3.3億円（3年間）

Q3 国の財政支援は当てにできるのか？

A3 国は約束を守ると言っています。しかし、今後三位一体改革などにより交付税の総額は減っていくと考えられることから、減少した交付税の総額を、合併の財政支援に優先的に配分する場合は、他の交付税はより減少することとなる可能性は高いと推測されています。

Q4 3市村を結ぶのは国道1本だけだが、合併した場合の交通網整備は？

A4 新市将来構想では、新たな道路を造るのではなく、吹雪対策や渋滞対策などに力を入れ、今の国道の機能向上を図ることとしています。

Q5 議員が50人になるという新聞報道があったが、どういう話し合いがされているのか？

A5 合併から次の石狩市議会議員の選挙までの間、議員を50人とすることができる在任特例は、合併で地域が寂れたり、地域の声が届かなくなるという不安を解消するため、法律上認められた制度です。小委員会では、定員を50人としながら、報酬総額は今の3市村合計額の範囲内に収めてはどうかという案もでていますが、最終的にどういう結論が出るかはまだわかりません。合併する場合の姿には、議員定数も示されるので、それも判断材料のひとつになると思います。現在有力な案は下図の2案です。

在任特例			
	現在	合併時	平成19年5月 (次回石狩選挙後)
案1	石狩 26人 厚田 12人 浜益 12人	石狩 26人	石狩 26人
		厚田 2人	厚田 2人
		浜益 2人	浜益 2人
案2	石狩 26人 厚田 12人 浜益 12人	石狩 26人	石狩 26人
		厚田 12人	厚田 2人
		浜益 12人	浜益 2人

Q6 合併すると今よりサービスが良くなるのか？

A6 今後は地方交付税などが減少すると考えられるため、合併する・しないにかかわらず、これまでのようなサービスを続けることは困難と思われます。合併の是非を判断する際は、現状と将来との比較ではなく、「合併しない場合の将来像」と「合併するとした場合の将来像」を比較して判断することが大切です。

Q7 合併による職員の合理化は？

A7 法律で合併を理由にした解職はできないことになっており、合併直後に職員が大幅に減少することはありません。しかし、合併後10年間で、3市村合わせて約180人（30%）が退職時期を迎えることから、これと新規採用の適切な調整により、段階的に削減することは可能です。将来の職員数の見込みは、2つの将来像の中でお示しします。

合併に関する「出前講座」受付中！

何人か集まればOKです。ご希望に合わせて説明に伺います。

申し込みは企画調整課(Tel:0133-72-3161)まで。

とことん考えよう！市町村合併（第6回）



厚田村・浜益村ってどんなマチ？

これまで開催してきた合併についての説明会の中で、「厚田村、浜益村についてよく分からぬ。知りたい」といった声が聞かれました。そこで今回は、データをもとに厚田村・浜益村の「まちの姿」を探ってみました。

1 まちの概要

石狩市厚田村浜益村まちの概要

	石狩市	厚田村	浜益村
総人口 (a)	54,567人	2,804人	2,363人
総面積 (b)	117.86平方メートル	292.83平方メートル	311.15平方メートル
可住地面積	100.69平方メートル	76.49平方メートル	44.95平方メートル
人口密度 (a/b)	463.0人／平方メートル	9.6人／平方メートル	7.6人／平方メートル

厚田村・浜益村はどちらも石狩市の約3倍の面積をもっていますが、可住地面積(田+畠+宅地の合計面積)は石狩市よりもはるかに小さくなっています。広大な山林に囲まれた平地が海岸沿いに点在し、そこに集落が形成されているまちです。

また、石狩市緑ヶ原(みどりがはら)地区と隣接する厚田村聚富(しゅっぷ)地区には厚田村総人口の約1/3が集中しており、石狩市とのボーダレス化が特に進んでいる地域です。

2 産業別就業者数

石狩市厚田村浜益村産業別就業者数

	石狩市	厚田村	浜益村
総就業者数a	26,111人	1,397人	1,199人
1次産業従事者数b (b/a)	4%	32%	23%
	878人	440人	273人
2次産業従事者数c (c/a)	28%	19%	33%
	7,142人	271人	403人
3次産業従事者数d (d/a)	68%	49%	44%
	17,391人	682人	523人
自市区町村で従業している就業者e (e/a)	47%	76%	93%
	12,381人	1,060人	1,117人

※ () 内はパーセントを示します

厚田村・浜益村はどちらも1次産業(農林漁業等)が中心のように感じられます。特徴的なのは浜益村の2次産業従事者の割合の高さです。これは道内で21番目に高く、村内で従業する就業者割合の高さも考え合わせると、建設・製造業という地元に根付いた雇用の場があることがうかがわれます。

3 世帯構成

石狩市厚田村浜益村世帯構成

	石狩市	厚田村	浜益村
世帯数a	18,688世帯	1,032世帯	1,091世帯
一世帯当たりの人員	2.90人	2.61人	2.27人
高齢者夫婦・単身世帯b (a/b)	2,644世帯 (14%)	265世帯 (26%)	405世帯 (37%)
	全道順位：200位	全道順位：44位	全道順位：1位
総人口c	54,567人	2,804人	2,363人
総人口に占める65歳以上人口の比率d (d/c)	8,034人 (15%)	762人 (27%)	905人 (38%)
	全道順位：207位	全道順位：58位	全道順位：2位

厚田村・浜益村は、高齢化の進んだまちと言えます。特に浜益村は、全道212市町村の中でも、最も高齢化が進んだまちのひとつであり、全道有数の「若さ」を誇る石狩市とは対象的です。しかし、石狩市にしても、今後は加速度的に高齢化が進むことは避けられません。その意味では、今の2村の状況が、何年後かの石狩市の姿であることを、誰が否定できるでしょうか。高齢者が慣れ親しんだ「自分のまち」で、元気に安心して暮らすための知恵を、2村から学ぶことが必要になるかもしれません。合併することになつても、しないことになつても、隣りまちの姿を知っておくことは大切なことだと思います。百聞は一見にしかず！この機会に厚田村、浜益村に足を運んでみませんか。今の季節は、みなと朝市やサクランボ狩りなど、楽しみもたくさんあります。

とことん考えよう！市町村合併（第7回）



とことん考えよう！市町村合併 第7回

-くらべてください！2つの姿-

合併意見交換会を開催いたします！

皆さんに厚田村・浜益村との合併の是非を判断していただくための材料である、「合併する場合の姿」と「合併しない場合の姿」が出来上がりました。この2つの姿はパンフレットにまとめ、9月に各戸にお配りしますが、この内容をより早く、より詳しくお知らせするため、次のとおり意見交換会を開催します。

当日は、2つの姿の内容をはじめとして、合併の有無により皆さんの暮らしにどのような違いが生まれるか、合併の是非を決めるまでのスケジュールなどについてご説明するとともに、意見交換を行います。

ご都合にあわせてご参加いただけるよう、34カ所で開催しますので、多くの皆さんのご来場をお待ちしています。

意見交換会日程

意見交換会日程

日にち	時間	場所
8月17日（火曜日）	19時から	南3条会館（花川南3-4）
	19時から	北生振（おやふる）ふれあい研修センター（北生振（おやふる）200-2）
8月18日（水曜日）	19時から	花川南睦美会館（花川南8-3）
	19時から	白樺会館（花川北2-5）
8月19日（木曜日）	19時から	南1条会館（花川南1-2）
	19時から	花川東会館（花川東70-1）
8月20日（金曜日）	19時から	花川中央会館（花川南1-4）
	19時から	紅葉山会館（花川北2-2）
8月21日（土曜日）	10時から	紅南会館（花川北1-5）
	14時から	ニューあかしや会館（花川南1-6）
	14時から	サンコーポラス石狩集会所（花川北1-1）
8月22日（日曜日）	10時から	市営花川団地集会室（花川北7-3）
	14時から	花川南第1会館（花川南8-1）
	14時から	漁民団地会館（新港東3-65）
8月23日（月曜日）	18時30分から	弁天会館（本町9-1）
	19時から	ひまわり会館（花川南5-3）
8月24日（火曜日）	19時から	グリーンコート花川団地集会所（花川南6-1）
	19時から	石狩中央会館（花川北7-3）
8月25日（水曜日）	19時から	コスマス会館（花川南4-2）
	19時から	親船会館（親船町60-7）
8月26日（木曜日）	19時から	センターコート花川集会所（花川北7-2）
	19時から	柏水会館（親船町75-526）
8月27日（金曜日）	19時から	花川南会館（花川南6-1）
	19時から	緑苑台グリーン会館（緑苑台東2-1）
8月28日（土曜日）	10時から	花川南第2会館（花川南10-3）
	14時から	道住樽川北団地集会所（樽川13-1）
	14時から	花畔（ばなんぐろ）農住団地会館（花畔（ばなんぐろ）363-24）
	18時から	生振（おやふる）ふれあい研修センター（生振（おやふる）793-5）
8月29日（日曜日）	10時から	パストラル会館（樽川16-2）
	10時から	わかば会館（花川北4-3）
	14時から	緑ヶ原会館（緑ヶ原1-174）
8月30日（月曜日）	19時から	公民館樽川分館（樽川1500-49）
	19時から	高岡ふれあい研修センター（八幡（はちまん）町高岡28-5）
8月31日（火曜日） 悪天候のため9月1日（水曜日）に延期になりました。時間・場所は変更ありません。	19時から	花畔（ばなんぐろ）中央会館（花畔（ばなんぐろ）3-1）
	19時から	八幡（はちまん）コミセン（八幡（はちまん）2-332）

※各意見交換会は同じ内容です。1時間半程度の開催を予定しています。

※葬儀などで中止・延期することがありますのでご了承願います。（その場合は会場玄関に掲示します）

※10人以上集まった会場での出張説明会も別途受け付けています。

公聴会開催のお知らせ

市では、合併の是非の判断にあたり、広く皆さんからの意見をお伺いするため公聴会を開催します。
石狩市・厚田村・浜益村の合併の是非に関して意見発表を希望される方は、次の方法でお申し込みください。

開催日時・場所

平成16年9月26日（日曜日） 午後2時から（2時間程度）
総合保健福祉センター「りんくる」2階 交流活動室（公開）

発表方法

6人以内の方に、1人15分以内で発表していただきます。

発表できる

方市内在住の個人、または、主に市内で活動する団体の代表者（満16歳以上）

選考方法

希望者多数の場合は、意見の内容や賛成・反対者の人数バランスなどを考慮して選考し、結果はご本人に連絡します。

申込方法

公述申出書（右記要件を満たしていれば様式は問いません）に意見要旨のほか必要事項をご記入のうえ、企画調整課へ郵送、ファックス、Eメール、持参のいずれかで提出してください。

申込締切

平成16年9月3日（金曜日） 必着

とことん考えよう！市町村合併（第8回）



とことん考えよう！市町村合併 第8回

国では、今の合併特例法の期限が切れる平成17年4月以降も引き続き市町村の自主的な合併を推進するため、合併関連3法を今年5月に成立させました。今回は、「市町村の合併の特例等に関する法律（以下、合併新法）」から、国が考える今後の市町村合併についてお知らせします。

現行法と新法その違いとは？

現行合併特例法と合併新法との法律の大きな違いは、合併特例債など現行法にあるような財政上の支援措置がなくなるということにあります。

しかし、国が財政支援をやめるのだから合併推進はここで一段落、ということにはなっていません。財政支援抜きの国の合併推進策は、平成17年4月から次の段階に入ることになります。

合併新法が描く市町村合併

平成17年4月以降の市町村合併推進のための方策

基本指針

総務大臣が、市町村合併を推進するための基本指針を策定します。

構想の策定

都道府県が、基本指針に基づき、市町村の合併の推進に関する構想を策定します。

設置の
合併協議会
の勧告会

申請に
に基づき、
暫停

合併協議
の勧告

※合併特例債など財政支援は廃止

合併新法によると、総務大臣が合併に関する基本指針を策定し、都道府県がこの基本指針を受けて、小規模市町村等を対象とした合併の推進に関する構想を策定することになります。そして、知事がこの構想に基づいて、合併協議会設置の勧告や合併協議推進の勧告を行うことになります。

ここでいう小規模市町村は、基本指針に人口の目安を1万人以下と明記する方針がすでに公表されています。

つまり、もし今、石狩市が厚田村・浜益村と合併しない道を選び、さまざま我慢を重ねて安定した運営基盤を作り上げたとしても、将来、2村の自立が危うくなるようなことがあれば、知事の勧告を受けた2村の相手として、石狩市が再び合併協議を受けることになる可能性は否定できません。

これから実施する意見交換会・公聴会・アンケートを通じて、このような国の方針などが石狩市にどのような影響を及ぼす可能性があるか、皆さんと一緒に考えていかなければなりません。

一緒に考えましょう！ 意見交換会・公聴会・アンケート

市民の皆様へ
ご協力を
お願いします。

市長と語ろう！合併意見交換会

3市村合併の是非を判断していただく材料である、「合併する場合の姿」と「合併しない場合の姿」について説明した後、市長と皆さんのが意見交換していただきたいと思います。ご都合の良い日にぜひご参加ください。

開催日時・場所

平成16年9月23日（木曜日・祝）午後2時～（2時間程度） 花川北コミセン

平成16年9月24日（金曜日）午後6時～（2時間程度） 八幡（はちまん）コミセン

3市村合併に関する公聴会

市では、合併の是非の判断にあたり、広く皆さんからの意見をお伺いするため「公聴会」を開催します。3市村の合併に関して、賛成・反対の立場から意見発表をしていただきます。傍聴希望の方は直接会場にお越しください。

開催日時・場所

平成16年9月26日（日曜日）午後2時～（2時間程度） りんくる2階交流活動室

合併アンケート調査（右の封筒を配付します）

市では、3市村合併と住民投票について、広く皆さんのご意見をお聴きした上で検討を進めるため、全戸アンケートを行います。

9月中旬に配付いたしますので、意見交換会や公聴会の状況なども参考にしながら、各家庭でお話し合いの上、ご記入をお願いいたします。

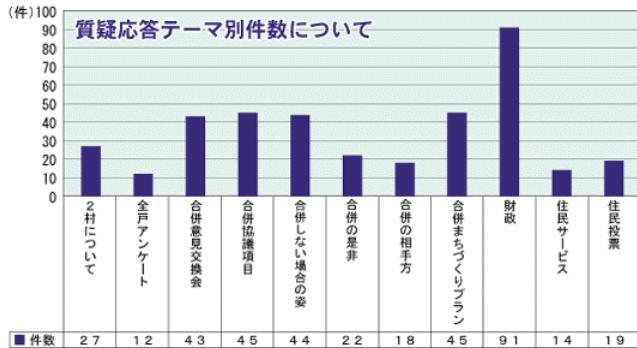


合併意見交換会を振り返って

平成16年8月17日から9月5日まで延べ17日間にわたり開催しました「合併意見交換会」は、台風等により延期もありましたが、35会場で633人のご参加をいただきました。

今回は、意見交換会の内容から、市民の皆さんか厚田村・浜益村との合併についてどのように考えているのかを探ってみました。

意見交換の内容



最も意見の多かったテーマは「財政」についてでした。

この理由については、合併する場合の姿、しない場合の姿の説明の中で、「合併する場合は国の財政支援による効果が非常に大きい」という説明をさせていただいたため、論点が絞られたことによるものと考えられます。以下、意見交換の内容をご一読ください。

特徴的な質疑内容

特徴的な質疑内容

- 2村について
- 全戸アンケートについて
- 合併意見交換会について
- 合併協議項目について
- 合併しない場合の姿について
- 合併の是非について
- 合併の相手方について
- 合併まちづくりプランについて
- 財政について
- 住民サービスについて

2村について

Q 厚田・浜益は合併についてどう考えているのか（11件）

A 浜益は11月に住民投票をするので、その結果が出なければ分からぬが、先日公表された「合併しない場合の姿」は相当厳しい内容である。厚田は「合併しない場合の姿」を作成中で、住民説明の結果を踏まえて判断すると聞いている。3市村とも合併を前提とした協議はしていない。

Q 石狩が合併するとした場合に、2村のどちらかが合併しないとなったらどうなるのか（7件）

A 3市村の合併について協議しているので、どこか一つでも欠けた場合は、今回の合併は不可能となる。

全戸アンケートについて

Q アンケートの方法、結果公表方法などの予定は（6件）

A 広報と同様の方法で、各戸に1枚配布する。未成年者も含め、家族でよく話し合って回答願う。回答結果は分析の上、速やかに公表する。結果を市としての判断にどう生かしたかについても公表する。

合併意見交換会について

Q 合併に誘導しようとする資料・説明内容ではないか（11件）

A 現行制度では財政的な差が出ることは避けられないため、そのことを認識した上で判断願いたいと考えているが、だから合併したほうが良いという意図はない。財政的な不利を承知の上で単独を選ぶみもある。

合併協議項目について

- Q 編入合併なのだから（今でも多いから）議員定数を一時的に50人とする在任特例の適用には反対（10件）
A 編入合併だが議論は対等であり、30人案との間で綱引きがあったが、報酬もからませて歩み寄った結果。議員の定数は議会しか決められず、議会を動かせるのは有権者であることを理解願う。なお、合併した場合は、協議会の附帯意見が定数削減を促す効果を持つ。

合併しない場合の姿について

- Q 合併新法による北海道知事の勧告は断ることができるのか（10件）
A 勧告は合併協議会の設置を促す趣旨であり、断ることもできる。ただ、実際に厚田・浜益が困っているときに断れるかどうかは、難しい判断になるのではないか。
Q 合併しないと石狩がつぶれるということか。合併しない場合でもつぶれないようにするのが市の責任だ（6件）
A 単独の場合に、合併する場合と同じような事業などをすれば財政破たんが避けられないことを説明している。合併した場合しない場合の姿の中で例示しているような取り組みをすれば、市はつぶれない。
Q 国の態度は脅迫だ。なぜそんなに合併させようとするのか（4件）
A 国が合併を進めるのは、市町村合併も構造改革の一環であり、小規模市町村が分立したままでは今後地方分権などがスムーズに進まないと考えているから。確かに脅迫かもしれないが、こうした法律ができたのは、政治状況の結果であり、国民の選択の結果である。

合併の是非について

- Q 市、市職員、協議会委員、議会などは合併の是非をどう考えているか（4件）
A 今のところ市は中立の立場で、市民意見などを十分聴いた上で検討することになる。市職員などの考え方を把握していない。

合併の相手方について

- Q 当別との合併は考えなかったのか、なぜ浜益との合併か（8件）
A 最初の段階では石狩北部5市町村で、という話もあったが、当時は当別が単独志向で、新篠津も飛び地になるので断念し、現在の3市村の枠組みになった。
Q なぜ札幌との合併を考えないのか（4件）
A 札幌市長はどことも合併する意志がない。合併は相手がその気にならなければ不可能。道州制が本格化すれば、道央圏全体の中でそうした動きが出るかもしれないが、今の時点では選択肢にならない。

合併まちづくりプランについて

- Q 合併した場合の市域が南北80kmにもなる点に不安がある（4件）
A 今を基準にして考えれば長いかもしれないが、他の合併が進めば極端に長いとはならないのではないか。国道231号の整備による交通アクセスの確保、地域インターネットによる情報通信網整備、地域自治組織による地域の声の反映など、距離を克服する対策を講じている。

財政について

- Q 合併特例債による合併まちづくり基金を積むことにより既存の借金をなくせるのか、特例債を使えば新しい借金を背負うことになるのでは（9件）
A 基金は新市全体のまちづくりに使うものだが、起債償還が苦しい時期には繰替え運用により一時に赤字の穴埋めに使える。また、合併しない場合でも行う事業につき、通常債に代えて特例債を借りることにより、市の負担が軽減できるので、その分を償還に回すこともできる。
Q 市の財政が苦しくなった原因は何か（8件）
A 最大的原因是税収が減少していること。不景気で新港地域からの税収が落ちていることが大きい。また、三位一体改革による交付税の減少もある。一方で借金の返済額は決まっていり、市民サービスは税収が落ちても簡単には削減できないので、それらのギャップにより財政が厳しくなっている。
Q 国の財政支援は本当にできるのか、次の世代に負担を回すことにならないか（6件）
A 合併特例債は法律で決まっているもので、現時点ではこれ以上の保証はない。ただし、交付税の総額は縮小傾向にあるので、財政支援分以外の交付税が割り落とされる可能性はある。
Q 財政指標は単独の場合のほうが良い。合併しないほうが良いということか（4件）
A 単独の場合は、相当の我慢をした結果が指標の向上に反映されている。従って、二つの姿のどちらが良いかは指標だけでは判断できないと思われる。
Q 合併すると市域が広くなるため経費がかさむと思うが（3件）
A 確かに狭いまちよりも広いほうが一般的にはコストがかかるが、財政計画ではそうしたコストもすべて含めた上で計算している。

住民サービスについて

- Q 2村の下水道整備により石狩の整備が遅れたり一般会計を圧迫することはないのか（2件）
A 会計は別として試算しているので石狩の下水道整備に影響はない。厚田の下水道は採算が取れないが、その赤字補填を見込んだ上で試算している。

一緒に考えましょう

一緒に考えましょう
意見交換会・公聴会・全戸アンケート・住民投票の検討など、いよいよ厚田村・浜益村との合併について結論を出す時期が迫ってきました。
市としては、皆さんの声を結論に反映させるために、さまざまな機会を通して、情報提供に努めています。将来に悔いか残らないように、一緒に考えましょう。
企画調整課では、10人以上集まつた会場での「出前説明会」の開催や、2つの姿の説明ビデオの貸し出しを行っていますので、お気軽にご連絡ください。

とことん考えよう！市町村合併（第10回）

合併に賛成？反対？それぞれの意見

「3市村合併に関する公聴会」を9月26日に「りんくる」交流活動室で開催しました。

およそ80人の傍聴者が見守る中、公募に応じた4の方が、厚田村・浜益村との合併について反対・賛成それぞれの立場から意見を発表しました。今回は、その意見の要旨をお知らせします。

※公聴会の進め方については、発表者が1人につき15分以内で意見を発表し、その後で主催者側(市役所)からの質問に意見発表者がそれぞれ答えるという形式で行いました。

反対

東 克弘さん（石狩市民オンブズマン代表）

○議員定数問題は密室で協議された。議会選出の協議会委員はその役割・責任を果たしていない。こうした状況での協議をもとにした合併は成功しない。

○意見交換会への参加が低調。市民の関心が低いのは、行政の進め方が悪い。町内会や市議会議員を巻き込んだ取り組みが必要。

■議長からの質問

(1)石狩市にとって合併のデメリットは何か？

(2)合併しない場合は合併する場合よりも我慢が必要という2つの姿の結論をどう思うか？

■東さんの回答

(1)単独にはメリット・デメリットの両方あるが、メリットのほうが多いと思う。石狩湾新港の開発に力を入れれば財政は好転するはずで、単独の方が利益が大きくなると思う。

(2)公共事業の落札率を下げれば金が浮く。そうした努力もせず財政が苦しいと言ってもメリットは出ない。それらの取り組みをすればメリットは石狩市のものになる。合併すればそれらのメリットは厚田・浜益が受けたため、デメリットの方が大きくなり、財政支援があっても住民にサービスを行き届かせることはできないと思う。

反対

熊上 國雄さん（合併反対市民の会代表）

○国との合併推進政策は、人口1万人以下の市町村が対象。石狩市はその対象外なので合併の必然性がない。

○この合併は財政支援を目当てにした財政立て直しが狙い。財源不足なら、財政支援でなく、自助努力で立て直すべき。工事の落札率を下げれば単独でも施設を建設できる。合併すれば2村の借金も引き継ぎ、合併特例債でさらに借金を重ねることになる。

○住民に十分なコンセンサスが図られる任意協議会から始めるべき。市長は2村に合併話を持ちかけたため、特別職救済のための区長設置や議員在任特例の密約をしたと思われるが、これは合併の趣旨に反し、市民理解が得られない。合併協議会委員は市長の仲良しグループで構成され、市長の協議会運営も粗末。こうした協議会で公正な議論がされたとは思えない。

○財政が苦しきれば職員も我慢すべき。民間が苦しんでいる中、行政職員だけが不況知らずで良い訳がない。行革をせずに合併特例債目当てに合併することには反対。仮に合併した場合、通勤手当だけでも巨額な出費になる。

○仮に将来、2村との合併協議を迫られたとしても拒否できる。協議を受け入れるとしても、議員定数、地域自治区、職員配置などについては石狩の主張を飲むよう条件を付けることができる。

■議長からの質問

(1)石狩市にとって合併のデメリットは何か？

(2)合併しない場合は合併する場合よりも我慢が必要という2つの姿の結論をどう思うか？

■熊上さんの回答

(1)合併のデメリットは、前段の説明で言い尽くしている。なお、一般的に言われる合併のデメリットは、被編入側の厚田・浜益においては当てはまるが、編入側である石狩市には当てはまらない。

(2)合併する場合の財政支援は借金であり、借金を新たに重ねて次代に負担を回すもの。それよりも石狩市が単独で存続するための自助努力を示すべきである。今の行革だけで存続できないのは、市役所が自らの権益を守ることしか考えていないから。

反対

伊閑 史子さん

○合併検討の理由である「地方分権対応」「少子高齢化対応」「三位一体改革対応」は、今の石狩市の面積と人口の範囲で取り組むことが、行財政面や住民サービスの効率性から最適。

○議員はまち全体を考えるはずなのに、地域にこだわる在任特例は疑問。各地区2人の議員と地域協議会などで地域の意見は十分に反映可能。合併する場合でも、次の改選までは30人定数とすべき。

○合併した場合、一部事務組合や土地開発公社を合わせた借金合計残高は膨大になる。合併しても収入が増えるわけではないので、財政支援がなくなった後の借金返済は難しい。

○自治体の借金は市民の借金であるから、応分の負担は我慢ではない。しかし、合併した場合には、新市のまちづくりのための公共事業があり、維持管理経費は継続されるものである。我慢を先にするか後にするかの違いで、合併した場合の負担はしない場合より大きい。

○3市村の合併協議は今後もあり得る。今は財政支援があるため、合併が有利に見えるのは仕方ないが、各自治体が単独維持計画を立て、計画を実施した後に合併論議をした場合には、合併特例債によるまちの活性化ではなく、住民意識の活性化につながっており、自治体の自治する力が育っている。

■議長からの質問

(1)財政支援がなくなった後の合併協議の行方は？

(2)合併する場合の財政試算が信用できない理由は？

■伊閑さんの回答

(1)2村は今回の合併協議で継続事業を見直し・廃止するものがたくさんあった。これからも徹底的に事業の見直しをすることが道理だと思う。

(2)少子高齢化加速の中で、どうしても借入金の返済が可能であるとは思えない。どんなに有利なローンであっても、3割は自治体の負担であるから。

賛成

榎本 哲史さん（石狩青年会議所）

○地方分権の大きな流れをしっかりと受け止めるためには、基盤のしっかりした地方自治体をつくる必要がある。その方法の一つとして市町村合併が考えられる。

○近隣の親しい自治体が悲鳴を上げている時に、目をそらし、自分たちが良ければいいという考えでは、これからを担う私たちの子供たちに決して胸を張ることはできない。

○将来、豊かで活気あふれる石狩市にするためには産業の振興や経済基盤の強化が不可欠であり、その実現のためには、合併を前向きに建設的に考えていく必要がある。

○例えば、警察署の設置は合併しない場合には相対的に実現の可能性が低くなるなど、合併しなかった場合には、私たちにとって不利益となる可能性のあることが非常に多く含まれている。

○石狩・厚田・浜益の優れた部分を伸ばしたうえで、削減や我慢により財政の健全化を図り、地方分権社会に備えることは、私たちの子供たちに対して私たちが今、しなければならない最も重要なことであると同時に、私たちの義務である。

■議長からの質問

(1)合併後約1年6ヶ月の間、議員定数が50人となることについてどう思うか？

(2)財政支援を使うことは次世代へ負担を残すことになるという考え方についてどう思うか？

■榎本さんの回答

(1)合併後の1年6ヶ月という期間は、新しい石狩において、住民と行政、そして地域が本当の意味で一つになるための期間であると思う。

(2)確かに合併による財政支援は負担を残すかもしれないが、自主独立できない自治体に、私たちの子どもたちのその子どもたちが住むリスクの方が、もっと負担を残す結果になるのではないか。

意見交換会の質疑内容

9月23日（会場、花川北コミセン）と24日（会場、八幡（はちまん）コミセン）の両日開催した「市長と語ろう！合併意見交換会」は、2会場合わせて約150人のご参加をいただきました。そこでの主な質疑内容をご紹介します。

Q 地域自治区に置かれる地域協議会とは。そこから提出された意見はどう扱うのか。

A 地域自治区は住民自治強化のために創設された制度で、2村地区の協議会は10年間設置する。協議会からの意見は基本的に尊重するが、束縛はされない。一種の審議会と理解願いたい。なお、地域自治区は合併の有無にかかわらず、市民自治を支える基礎自治体の経営システムとして全市に展開することを考えている。今後、石狩の自治基本条例を検討する上で、地域自治は重要な位置付けになると思う。

Q 地域自治区に特別職の区長を置いて2村の村長を充てるのは行革に逆行すると思うが。

A 村長を区長に充てるという話はないが、仮に合併するなら、地域の実情を熟知する方の就任が望ましい。個人的には、村長以外の特別職レベルの方の就任が良いと考えている。

Q 財政支援によって当面の資金手当てがつくとしても、それがなくなった後が不安。

A 財政支援はカンフル剤と認識しており、それが効いている間に健全な体質へと改善する計画を立てている。要は、カンフル剤で体力を維持しながら体質改善をするか、さまざまな我慢を重ねて体質改善を図るかの選択の問題である。合併した場合、財政支援を受けている間に議員や職員が減るとともに、ローン返済のピークが過ぎるので、その後は財政が安定するを見ている。

Q 今回の合併論議に当たっては、まず、札幌市との合併が今困難な理由を説明したほうが良いと思う。

A 札幌合併の現状と見通しは、議会で答え、議会だよりも既に載っている。札幌市長が、札幌市にとって合併は今日的課題でないと言っている。来年3月の期限の中で、明確にノーと言う自治体に合併を望むのは実体的に無理。札幌合併は、札幌を議論のテーブルに乗せる努力や札幌が乗る機運が必要。そのためには、道州制や北海道発展のために札幌圏の都市機能をどう集約するかという議論が必要と思うが、来年3月までにこの問題を具体化するという状況はあり得なかった。

3市村合併に関する全戸アンケート集計結果

市では、9月に「合併する場合」と「合併しない場合」の石狩市の姿をまとめたパンフレットを市内全戸に配付するとともに、合併に関するアンケートを実施し、2つの姿の比較、合併の賛否とその理由、住民投票の必要性についてお尋ねしました。皆さんの御協力にお礼を申し上げますとともに、アンケートの集計結果をお知らせします。

※以下、端数処理の関係上、割合の合計が100%にならない場合があります。

配付件数 19,851件

回答数 5,904件

回収率 29.7%

(平成16年10月6日現在)

●厚田村・浜益村との合併に対する考え方について

有効回答合計 5,830件

- ・反対・どちらかといえば反対 3,276件 (56.1%)
- ・賛成・どちらかといえば賛成 2,071件 (35.5%)
- ・その他 483件 (8.2%)

厚田村・浜益村との合併については「反対」2,148件、「どちらかといえば反対」1,128件あり、「賛成」1,055件と「どちらかといえば賛成」1,016件を合わせた回答数より20%以上上回りました。

●「合併する場合の石狩市の姿」と「合併しない場合の石狩市の姿」の比較について

有効回答合計 5,726件

- ・「合併しない場合の姿」の方が好ましい 2,459件 (42.9%)
- ・「合併する場合の姿」の方が好ましい 1,987件 (34.7%)
- ・どちらも同じ 570件 (10.0%)
- ・2つの違いがわからない 361件 (6.3%)
- ・パンフレットを読んでいない 48件 (0.8%)
- ・その他 301件 (5.3%)

2つの姿の比較については、「合併しない場合の姿の方が好ましい」と思う方が多く、「合併する場合の姿の方が好ましい」と思われる方を約8%上回りました。

●厚田村・浜益村との合併の是非についての住民投票の必要性について

有効回答合計 5,692件

- ・必要がある 3,632件 (63.8%)
- ・必要がない 1,351件 (23.7%)
- ・その他 709件 (12.4%)

住民投票については、約64%の方が「実施する必要がある」と考えており、「必要がない」と答えた方約24%を大きく上回りました。

●合併に「反対」あるいは「どちらかといえば反対」の主な理由（上位5つ）

- ・まちが広くなりすぎて、まとまりや一体感が得られないと思うから
- ・税や公共料金があがったり市民サービスが低下すると思うから
- ・石狩市は合併しなくても自立できると思うから
- ・合併の相手先は厚田村・浜益村以外のまちが良いと思うから
- ・国の財政支援は信用できないから

●合併に「賛成」あるいは「どちらかといえば賛成」の主な理由（上位5つ）

- ・国の財政支援を受けられるから
- ・市町村の再編は積極的に進めるべき（避けられない）と思うから
- ・行政の効率化が図られると思うから
- ・少子・高齢化社会に対応する必要があると思うから
- ・合併した方が安定的な財政運営ができると思うから

(単位:件)

厚田村・浜益村との合併に対する考え方	「合併する場合の石狩市の姿」と「合併しない場合の石狩市の姿」の比較							合計
	どちらかといえは賛成 「合併しない場合の姿」の方が好ましい	どちらも同じ	2つの悪いが どちらかといえは反対 どちらでもよい	どちらかといえは反対 どちらでもよい	どちらかといえは反対 どちらでもよい	どちらかといえは反対 どちらでもよい	どちらかといえは反対 どちらでもよい	
賛成	1,014	6	14	4	2	8	7	1,055
どちらかといえは賛成 「合併しない場合の姿」の方が好ましい	816	13	109	33	3	24	18	1,016
どちらかといえは反対 どちらでもよい	59	685	191	91	10	59	33	1,128
反対	37	1,724	109	65	11	151	51	2,148
どちらかといえは反対 どちらでもよい	41	18	87	147	9	44	12	358
どちらでもよい 関心がない	11	6	53	15	5	8	3	101
無回答	8	4	1	2	0	6	53	74
合計	1,987	2,459	570	361	48	301	178	5,904

厚田村・浜益村との合併の是非についての住民投票の必要性について	厚田村・浜益村との合併の是非についての住民投票の必要性について							合計
	必要がある	必要がない	わからない 決められない	どちらでもよい	どちらでもよい 関心がない	どちらでもよい 無回答	合計	
賛成	341	593	32	52	0	37	1,055	
どちらかといえは賛成 「合併しない場合の姿」の方が好ましい	429	344	108	100	1	34	1,016	
どちらかといえは反対 どちらでもよい	803	157	76	37	5	50	1,128	
反対	1,818	208	35	23	7	57	2,148	
どちらかといえは反対 どちらでもよい 関心がない	175	29	131	20	1	2	358	
どちらでもよい 関心がない	37	13	5	42	2	2	101	
無回答	6	0	0	3	15	0	24	
合計	3,632	1,351	398	280	31	212	5,904	



市民参加手続の結果

合併問題についての市長見解

厚田村・浜益村との合併等に関する市民参加手続（アンケートおよび公聴会）での意見を総合的に検討した結果、市長は、平成16年10月15日の市議会臨時会で、次の要旨のとおり考え方を表明しました。

1 住民投票は実施が妥当であり、市長としての最終判断はその結果を尊重して行う。なお、投票方法の特例、住民投票の成立要件、その他技術的な規定整理の必要性につき、議会で十分に検討することが適当である。

【理由】

- 市民との対話や全戸アンケートなどで、住民投票を求める根強い声がある。
- 合併問題は、通常以上に市民世論を踏まえる必要があるが、これまで市民の反応が低調である。
- このため、新たな判断材料として、2のとおり、合併の是非に関する市長の認識を市民に示した上で、住民投票を行うことが適当。
- 後段なお書きの部分は、今回の直接請求が、合併の賛否について市民全体の意思を反映させるという請求の趣旨も踏まえ、議会において検討が必要と思われる事項を挙げたもの。

2 厚田村・浜益村が是とするのであれば、石狩市としても2村との合併に積極的に対応すべきと考える。

【理由1】

合併のメリットは合併のコストを上回る

- 合併のメリットは、地域資源や自然環境などに大きなプラスが生まれること。今後の自治体は創意工夫で発展を図る必要があるが、合併により、まちの可能性と多様性が高まり、創意工夫の幅が広がる。石狩湾新港を擁する本市に、豊かな自然と農林水産資源が加わることで、新市は、安心・安全・いやし・安らぎなどの価値が高まる今後の時代にマッチした、独自の存在感と個性を持つ都市になる可能性が生まれる。
- 「合併した場合の姿」の中で、合併のコストを検証したところ、(1)合併する場合は基本的に現在の市民サービスのレベルを維持できる、(2)新市の建設コストは、合併への財政支援と合併による行革効果により無理なく負担ができる、(3)新市の維持コストは、合併による行革効果により、財政支援がなくなった状態でも無理なく負担ができる、という結果になった。
- 以上のメリットとコストを比較すれば、メリットがコストを大きく上回ることが明らかである。

【理由2】

合併しない場合の逸失利益が大きい

- 現在求められている都市施設の整備は、合併した場合は速やかに進められるが、合併しない場合は難しい。いま必要な施設を何年か先に同じように作っても、投資効果は減少する。厳しい財政状況だからこそ、投資タイミングを的確に計ることが必要。
- 合併しない場合に余儀なくされる緊縮的な財政運営のもとでは、必要な施策を適時的確に実施できるような財政環境の確保が難しい。都市の企画力や実行力が厳しく評価される時代に、このことの危険性は看過できない。
- これらを踏まえると、市民の多数が望む場合は別だが、いま進んで合併しない道を選択することは、市長の職責（市民利益の最大化）に背く行為とも感じられる。

【理由3】

地方自治を取り巻く諸情勢を大局的に分析した結果

- わが国の行政システムは、国よりも地方を、都道府県よりも基礎自治体を重視した構造改革の断行が迫られており、市町村合併はその一環。これに積極的に参画し、一日も早い地方自治新時代の招来を図ることは、責任ある自治体が取るべき道である。
- 合併新法の来春スタート、国による道州制の本格検討、北海道の道州制特区申請など、地方行政のテーマは市町村合併以後の論議に移りつつある。こうした現状を見ると、仮にいま単独を選んでも、将来ふたたび2村との合併議論が起きる可能性は否定できず、その際は極めて難しい判断が求められると考えられる。

【理由4】

決定的な合併のデメリットが指摘されていない

- 合併協議会の進め方や議員の在任特例などへの批判（公聴会での意見）などは、あえて単独を選択し、市民生活などへの影響を甘受するほどの理由にはならない。
- 借金の増加や返済可能性などへの危惧（公聴会での意見）については、合併まちづくりプランに基づく行財政改革を徹底し、財政規律を維持すれば、新市は十分な対応能力を持つことが明らか。
- 全戸アンケートで合併に反対する意見が過半数だったが、その主な理由は「まちが広くなりすぎる」「負担の増加やサービスの低下」「石狩市は合併しなくても自立できる」など。これらの理由は、市民が二つの姿をしっかりと見て、合併した場合の行革効果を実感するとともに、今後、新時代の基礎自治体の現実の姿が具体化するにつれ、理解が得られていくと判断する。
- 身の丈に合った行財政運営を図る以上、将来の行政サービスは、合併の是非にかかわらず、ほぼ同じになる。市民の暮らしへの影響をできるだけ緩和しながら、スムーズに石狩市の回生を図るために、合併でソフトランディングを図るのが、市長の務めであり、多くの市民の願いにもかなうと考える。

なお、直接請求があった住民投票条例制定の可否については、市議会の厚田村・浜益村との合併調査特別委員会で審査されています。

「合併に関する全戸アンケート」の最終集計結果

対象：市内全世界（19,851件） 回収数（率）：5,939件（29.9%）

1 「合併する場合の石狩市の姿」と「合併しない場合の石狩市の姿」の比較について

選択肢	回答数	割合 (%)
「合併しない場合の姿」の方が好ましいと思う	2,471	42.9%
「合併する場合の姿」の方が好ましいと思う	1,997	34.7%
どちらも同じだと思う	574	10.0%
2つの姿の違いがわからない	365	6.3%
パンフレットを読んでいない	48	0.8%
その他	305	5.3%
有効回答合計	5,760	100.0%

2 厚田村・浜益村との合併について

選択肢	回答数	割合 (%)
反対	2,161	36.8%
どちらかといえば反対	1,131	19.3%
賛成	1,061	18.1%
どちらかといえば賛成	1,022	17.4%
わからない・決められない	364	6.2%
どちらでもよい	101	1.7%
関心がない	25	0.4%
有効回答合計	5,865	100.0%

3 合併に「賛成」「どちらかといえば賛成」の方の理由（上位5つ）

選択肢	回答数	割合 (%)
国の財政支援を受けられるから	790	14.2%
市町村の再編は積極的に進めるべき（避けられない）と思うから	739	13.3%
行政の効率化が図られると思うから	706	12.7%
少子・高齢化社会に対応する必要があると思うから	572	10.3%
合併した方が安定的な財政運営ができると思うから	544	9.8%
有効回答合計	5,551	100.0%

4 合併に「反対」「どちらかといえば反対」の方の理由（上位5つ）

選択肢	回答数	割合 (%)
まちが広くなりすぎて、まとまりや一体感が得られないと思うから	1,187	13.7%
税や公共料金があがったり、市民サービスが低下すると思うから	1,009	11.7%
石狩市は合併しなくても自立できると思うから	970	11.2%
合併の相手先は、厚田村・浜益村以外のまちが良いと思うから	820	9.5%
国の財政支援は信用できないから	689	8.0%
有効回答合計	8,652	100.0%

5 厚田村・浜益村との合併の是非についての住民投票の必要性について

選択肢	回答数	割合 (%)
必要がある	3,658	63.9%
必要がない	1,356	23.7%
わからない・決められない	400	7.0%
どちらでもよい	281	4.9%
関心がない	31	0.5%
有効回答合計	5,726	100.0%

※端数処理の関係上、割合の合計が100%にならない場合があります。



合併問題　いよいよ大詰め！

1月16日住民投票

12月3日の市議会で、厚田村・浜益村との合併は、住民投票を行い、その結果を尊重して最終判断をすることに決まりました。

市では、昨年1年間、皆さんに合併の是非をお考えいただくため、合併する場合・しない場合の2つの姿のパンフレットの全戸配付、90回近くの出前講座や意見交換会を実施してきました。

合併は石狩市の将来を大きく左右する重要な問題です。

投票の際には、ぜひ2つの姿をしっかりと比較し、よく考えていただくようお願いします。



厚田村・浜益村との合併に関する住民投票結果報告

石狩市が厚田村および浜益村と合併することの賛否を問う住民投票は、投票率が60%未満でしたので不成立となり、開票されませんでした。

投票資格者数 44,879人

投票者数 19,450人

投票率 43.34%

～住民投票の結果を受けての市長コメント～

石狩市長 田岡 克介

昨年12月3日の住民投票決定以来1カ月余の間、私としては、ぜひ開票により、市民自らがこの問題の結論を出すことを期待し、数十回の集会や街頭に立ち、合併問題は将来のまちづくりと生活防衛問題であり、投票に参加していただきたいと直接訴えてまいりました。それだけに結果につきましては、非常に残念と言わざるを得ません。

本市は、平成14年に3市村合併問題研究会を立ち上げ、翌15年から石狩市・厚田村・浜益村合併協議会を設置し、1年半、延べ14回にわたる協議会を経て「合併まちづくりプラン」を作成しました。一方では「合併しない場合のプラン」も作成し、100回を超える住民説明会、公聴会、そして全戸アンケート調査を行うなどして、市民コンセンサスの形成を図るために、考え得るあらゆる努力を重ねてまいりました。こうした一連のプロセスの最終段階が、住民からの直接請求を受けて行なった、今回の住民投票であります。

今回の結果は、投票数により可否を決定することはできませんでしたが、合併の判断は市長と議会に委ねられたということになります。また、開票しないことについては、さまざまなお考えもあるとは思います。しかし、この住民投票は議会で定めた条例に基づいて行われたもので、開票に至らなかった結果そのものは厳粛に受け止めていかなければならないと考えます。

今後は、これまで申し上げてきた私の考えに立って、合併を進める方向で厚田村・浜益村とさらに調整を行い、議会提案など最終の手続きを進めてまいります。

合併に関するスケジュール

1月27日 3市村長の合併協定書調印

2月 8日 3市村議会への合併提案

↓3市村いずれも可決したとき

10月1日 合併成立

※このコーナーは今回で終了いたします。長い間お読みいただきありがとうございました。